住民グループを対象としたアダプト･プログラムの評価に関する基礎的研究

大分工業高等専門学校 学 小野 真由美
同 正 亀野 辰三

1．目的

近年，住民グループや企業間で全国的にアダプト･プログラム(以下，APとする)の導入が進んでいる．AP参加団体は年々増加傾向にあり，2004年10月時点で6500を超えている．参加団体の構成としては，企業が最も多く，次いで環境ボランティア，サークル，町内会，青年会･老人会，商店会，学校となっている．活動の内訳としては，清掃･除草活動，花壇の世話･管理，除雪，情報提供活動等が行われている[1]．このAPに関しては，津賀･近藤ら[2]により，アダプトプログラムと他の住民参加型の環境管理方法と比較をしつつ，環境管理方法としての有効性･課題を明らかにしているが，他の研究事例はほとんど見られない．

そこで本研究では，住民参加団体の中で大きな割合を占める環境ボランティアと老人会を対象とし，また活動内容の異なった参加団体を対象に，参加者の意識の差や現状について検討する事を目的としている．

2．研究の方法

(1) 調査団体

(a)「みすゞいいこと花壇」

山口県長門市仙崎地区で活動を行っている．JR 仙崎駅前の県道仙崎港線(700m)の歩道の花壇を一区画約8㎡(51区画)に分け，市民(参加者172人)に開放し，花の植栽から草取り，水やりなど一切をボランティアとして管理する．いいことメンバーは会員総数172人で構成され，51区画の花壇のうち，48 区画を管理する．残りの3区画の花壇は長門市が管理する．

(b)「顕徳町デウスクラブ」

大分県大分市顕徳町で活動を行っている．現在66人で国道10号の顕徳町1丁目～3丁目までの歩道で(両側，計940m)，植樹帯，花壇の清掃活動，花の管理，植樹帯の管理などを行う．65～85 歳までのメンバーで構成された老人会である．

(2) アンケート調査

平成16年10月に上記の二団体を対象に「道路美化活動推進のための住民意識調査」を実施した．各団体の代表者に調査票を郵送し，参加者一人一人に配布してもらい，参加者に返信用封筒で返送してもらう方法を採用した．みすゞいいこと花壇は48部配布し，回収数は28部，回収率は58%であり，顕徳町デウスクラブは66部配布し，回収数は43部，回収率は65%であった．

(3) 設問項目について

設問項目は，次に述べる1)道路美化活動参加以前の意識，2)道路美化活動に参加しようとしたきっかけ，3)APに参加しての満足度について，4)APを行っての活動区域のゴミ減少の効果について，5)サインボード設置の効果について，6)参加者の経験年数など計16項目である．

3．集計結果

(1) 道路美化活動参加以前の意識について

「現在の活動以前に道路美化活動を行っていたか」は，みすゞいいこと花壇は「していた」(33%)，顕徳町デウスクラブは(57%)で，両団体とも主に自治会や婦人会などの組織の活動の一環として行っていた人が多いことが分かった．

(2)「道路美化活動に参加しようとしたきっかけ」について

みすゞいいこと花壇は「自ら進んで参加した」(34%)が多く，顕徳町デウスクラブは「知人の紹介で参加した」(36%)が多かった．

(3) APに参加しての満足度について

みすゞいいこと花壇は「非常に満足している」は(14%)で「ほぼ満足している」は(43%)であり，57%の人が“満足”していると回答し，18%の人が“不満”と回答した．顕徳町デウスクラブは「非常に満足している」が(23%)，「ほぼ満足している」(51%)であり，74%の人が“満足”であると回答し，3%の人が“不満”であると回答した(図-1)．また，満足と答えた人に対して「何に満足しているのか」を尋ねたところ，みすゞいいこと花壇は「地域を訪れる人に良い印象を持ってもらえるから」が最も多く，次いで「地域や道路を美しくできるから」であった．顕徳町デウスクラブでは，「地域や道路を美しくできるから」が最も多く，次いで「地域の活性化に貢献しているから」であった．

(4) APを行ってのゴミ減少の効果について

「道路美化活動によって活動区域のゴミが減少したか」については，みすゞいいこと花壇は「非常に効果があった」

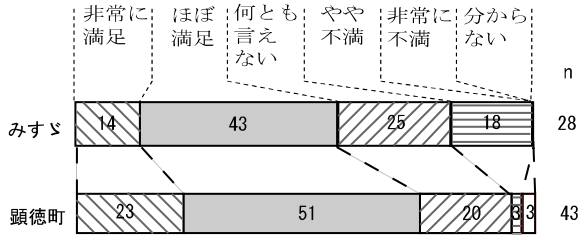

図-1　参加満足度

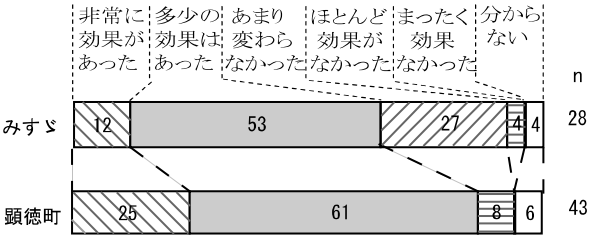

図-2　サインボードの設置によるゴミの減少効果

(12%),「多少は効果があった」(53%)を合計した“効果あり”は 65%であり,「あまり変わらなかった」(27%),「ほとんど効果がなかった」(4%),「全く効果がなかった」(4%)を合計すると 35%であった. また, 顕徳町デウスクラブでは“効果あり”と回答した人は 76%であり, ”効果なし”と回答した人は 8%であった. 両団体とも”効果あり”と回答した人が多い.

(5) サインボード設置の効果について

「サインボードの設置によるゴミの減少効果」は, みすゞいいこと花壇は「非常に効果がある」(18%),「多少効果がある」(32%)を合計した“効果あり”が 41%であり,「あまり変わらない」(42%),「ほとんど効果がない」(4%),「全く効果がない」(4%)を合計した“効果なし”は 50%と, “効果あり”を上回る結果となった. 顕徳町デウスクラブは“効果あり”は 64%で“効果なし”は 28%であり, サインボードの設置は効果的であることが分かった(図-2).

「サインボードの設置による参加者への励み効果」は, みすゞいいこと花壇は「非常に励みになっている」(29%),「少しは励みになっている」(49%)を合計した“励み効果あり”は 78%であった. 顕徳町デウスクラブは“励み効果あり”と回答した人は 66%であり, 励み効果は高いことがわかる.

「サインボードの設置による活動のＰＲ効果」は, みすゞいいこと花壇は“効果あり”と回答した人は約5割である. 顕徳町デウスクラブも“効果あり”と回答した人は約半数である.

(6) APの効果について

AP の効果を定量的に把握するため下記の各効果項目について5段階評価(5点：大変効果あり, 4点：効果あり, 3点：普通(分からない), 2点あまり効果なし, 1点：全く効果なし)を行った. 両団体について平均点を算出し表-1にまとめた. 表-1によると, APの効果としてみすゞいいこと花壇で

表-1　APの効果の評価

評価項目	みすゞ	顕徳町
道路の美観向上に貢献する	4.4	3.9
地域のイメージを向上させる	4.4	3.6
地域の連帯感をつくる	3.4	3.7
参加者同士の交流に役立つ	3.4	4.0
維持管理費の低減効果がある	3.6	3.4
人材の育成に役立つ	3.4	2.8
ゴミのポイ捨て防止に効果がある	3.5	3.1
道路のマナー向上に役立つ	3.7	3.1

は,「道路の美観向上」や「地域のイメージを向上」が挙げられ, 顕徳町デウスクラブでは,「参加者同士の交流」や「道路の美観向上」が挙げられた. また, 両団体とも「人材の育成に役立つ」はあまり効果がないと判断している事が分かる.

4. 結論

(1)顕徳町デウスクラブに対してみすゞいいこと花壇の満足度が低く, 不満と答えた人が多かった. これは, みすゞいいこと花壇では花を育てる事から水遣りまで全てにおいて行うことから満足度も得られるが, 責任が大きくのしかかってくるため, 不満と回答する人が, 清掃活動を行っているデウスクラブに比べ多かったのであろうと推測される. また花壇のコンクールなども開催され, この様なことからも大きなプレッシャーを抱えていることが分かる. また, 道路美化のどのような面に満足しているのかは, 一方は「地域を訪れる人に印象をもってもらえるから」と一方では「地域や道路を美しくできるから」が満足度の大きな要因であることが分かった.

(2) サインボードの設置によりゴミの減少や参加者の励みには効果的ではあるが, AP のＰＲ効果は”効果あり”と回答した人は約半分に止まる結果であり, どちらとも言えない結果となった.

(3) AP の効果を調べる事により, 団体ごとの目的を把握することができた. みすゞいいこと花壇は「道路美観の向上」「地域イメージの向上」, デウスクラブは「参加者との交流」であることが明らかとなった. これからも分かるように, 活動に対しての意識に差が現れた.

【参考文献】

1) 社団法人　食品容器環境美化協会
http://www.kankyobika.or.jp/index.html

2) 津賀高幸・近藤隆二郎(2002)：住民参加型の環境管理方法としてのアダプトプログラムの特徴, 土木計画学研究・講演集, vol.26, pp1-4